

在宅療養者の服薬管理に関する専門部会 今後の方向性について

＜これまでの取り組み＞

- ・当専門部会は、これまで計7回（29年度2回、30年度5回）開催し、「服薬情報の共有、一元化」、「関係機関連携、服薬支援体制」、「患者・家族の理解、市民啓発」等について検討を行なった。
- ・平成30年度は、宝塚市立病院をはじめ先進事例の調査をふまえ、情報共有ツールに関する薬剤情報提供モデル事業の実施、電子お薬手帳と市民PHRとの連携や、関係者の連携に関する関係機関の役割・連携のフロー図作成等の議論を行なった。

＜今後の方向性＞

- ・服薬情報の一元化の実現に向け、電子お薬手帳等のICTツールの活用を念頭に、具体的な方策と関係者間の連携の仕組みについて検討する。（薬剤情報提供書や服薬状況アセスメントシート等の活用などによる関係者間の連携の仕組みを含む）
- ・地域住民及び地域の関係機関に対し、高齢者の服薬管理の重要性や、かかりつけ薬局・薬剤師の普及及び関係機関連携の必要性について、効果的に普及・啓発を行う。
- ・服薬管理に関する関係者間の情報共有や役割・連携方法等をまとめた支援者向けガイドラインを作成する。

＜今年度の取組み（スケジュール）＞

- | | | |
|-----|---------|----------------------------------------------------------------|
| 第1回 | 令和元年7月 | ・電子お薬手帳普及の現状と電子お薬手帳相互間連携の仕組みについて
・電子お薬手帳等ICT化の普及に向けた取組みについて |
| 第2回 | 令和元年9月 | ・電子お薬手帳の機能拡張（h a r m oの取組み等）について |
| 第3回 | 令和元年12月 | ・電子お薬手帳をはじめとした、服薬情報一元化の取組みについて（アセスメントシート等） |